

「JA=ゼーエー、相づち「さいな」…」



倉吉弁について語り合う桑本裕二さん(左)と桑本みつよしさん=2022年9月10日、倉吉市駄経寺町、倉吉未来中心

倉吉の方言 楽しく分析

山陰放送アナウンサーの桑本みつよしさん(56)と松江工業高等専門学校人文科学科准教授の桑本裕二さん(55)が2人の古里・倉吉市の方言をテーマにした対談が書籍となり発売された。気軽に読める対談形式で、アクセントや発音の特徴から語彙まで幅広くひもとき、方言の魅力に光を当てている。

(梶井映志)

対談は裕二さんが代表を務める「倉吉ことばの会」の第10回会合で2022年9月に倉吉市内であった。アクセントについては米子弁と対比させて説く。倉

吉東高校や米子東高校をそれぞれ地元で「ピガシコ」と呼ぶとき、倉吉弁は「シ」にアクセントがあり「コー」で下がるが、米子弁は「ガ」にアクセントがあり「シコ」で下がらず平板に発音するという。

倉吉弁は「セ」「ゼ」を「シ」「エ」「ジエ」と発音するが、「JA」を「ゼーエー」と読む人がいることについて「シ

エ、ジエが標準語と違うことにうすうす気付いており、シエ、ジエはセ、ゼと直しておけばいいと思って、直し過ぎてしまう過剰修正だ」との分析も面白い。相づちに使う「さいな」

「ほんに、きゃー」のように使う感嘆詞「きゃー」など廃れつつある方言を挙げる一方で、米子弁の「うへん(うでしょ?)」など新しい方言にも言及。ピーマンを「コショウ」と呼ぶかどうかを引き合いに鳥取、島根両県の方言の分布にも話が膨らむ。



さん、書ばア
よしのこ
さんとの
みつのメ
つとさ一
本本「倉
桑本「倉
と研究

さん、著ばア
よしのこ
さんとの
みつのメ
つとさ一
本本「倉
桑本「倉
と研究
吉弁―メディアと研究の
狭間で―(山陰中央新報
社)は新書版、1800
1100円。

アナ、高専准教授 対談本